

## 第3章

### 訓子府町の子ども・子育てを取り巻く状況

---

# 1 人口等の動向

訓子府町の人口は年々微減傾向にあり、第1次計画策定時(平成27年)と現在(平成31年)の総人口を比較すると、323人(6%)の減となっています。

◆総人口の推移 (資料：住民基本台帳 各年1月1日現在)

年	総人口(単位：人)			世帯数 (単位：世帯)
	総数	男	女	
平成27年 (2015年)	5,323	2,532	2,791	2,090
平成28年 (2016年)	5,265	2,491	2,774	2,089
平成29年 (2017年)	5,201	2,461	2,740	2,087
平成30年 (2018年)	5,110	2,433	2,677	2,097
平成31年 (2019年)	5,000	2,387	2,613	2,095

同様に、年齢別人口の推移をみると、15歳未満が70人(11%)減、15歳から64歳が284人(10%)減、65歳以上が31人(1.7%)増加しており、少子高齢化が進んでいます。

◆年齢別人口の推移 (資料：住民基本台帳 各年1月1日現在)

年	総人口(単位：人)			
	総数	0~14歳	15~64歳	65歳以上
平成27年 (2015年)	5,323	632	2,855	1,836
平成28年 (2016年)	5,265	609	2,794	1,862
平成29年 (2017年)	5,201	607	2,733	1,861
平成30年 (2018年)	5,110	585	2,637	1,888
平成31年 (2019年)	5,000	562	2,571	1,867

(資料：住民基本台帳 各年1月1日現在)

また、人口を世帯数で割り返した1世帯あたりの人口は、減少傾向にあるものの、ほぼ横ばいで推移しています。

◆1世帯あたり人口

項目	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	平成31年 (2019年)
世帯数	2,090	2,089	2,087	2,097	2,095
人口	5,323	5,265	5,201	5,110	5,000
1世帯あたり人口	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3

出生数は、各年でばらつきがみられるものの、過去5年間の平均は、29.2人となっています。

また、母親の年齢5歳階級別出生数をみると、各年とも、30歳から34歳をピークに山なりに推移しており、19歳以下の若年層と40歳以上の高年層は、ある程度いることがわかります。

◆女性年齢5歳階級別出生数

	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	平成31年 (2019年)
15～19歳	0	0	1	0	1
20～24歳	3	2	1	4	1
25～29歳	10	7	9	5	6
30～34歳	10	12	16	14	6
35～39歳	3	7	8	5	9
40～44歳	2	1	2	2	0
45～49歳	0	0	0	0	0
合計	28	29	37	30	23

(資料：住民基本台帳 各年1月1日から12月31日まで)

## 2 子育て支援施策に関するニーズ調査の概要

### (1) 調査の目的

本計画の基礎資料として、小学生以下の子どもがいる全ての家庭を対象に、「子育て支援施策に関するアンケート調査」を実施しました。

### (2) 調査の実施概要

訓子府町に住民票がある未就学児童及び小学生の子どもをもつ全世帯を対象に実施しました。

	就学前児童のいる世帯	小学生のいる世帯
対象者（世帯数）	150	176
回収数（率）	112（74.7%）	113（64.2%）
実施時期	平成30年10月	

### (参考) 第1期計画策定時のニーズ調査結果

	就学前児童のいる世帯	小学生のいる世帯
対象者（世帯数）	192	
回収数（率）	157（81.8%）	
実施時期	平成26年1月	

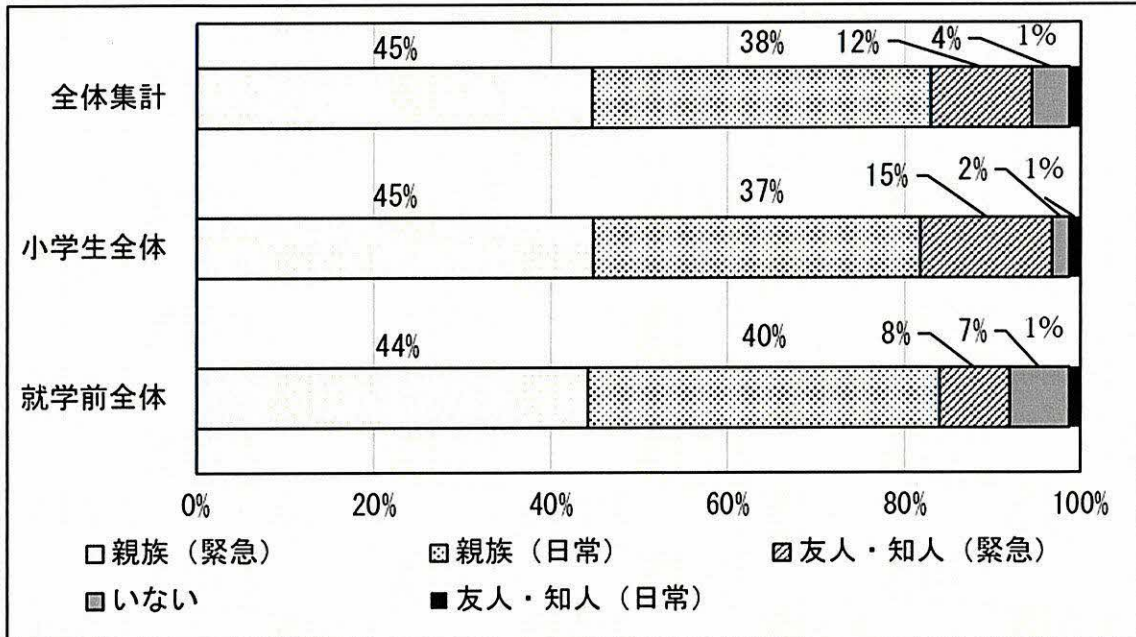
### (3) 調査結果

- 次項からは、主な質問項目に対する回答結果の抜粋を掲載しています。
- この調査において「前回」とは、第1期子ども・子育て支援事業計画策定時に実施した「ニーズ調査（の結果）」（平成26年1月実施）をいいます。
- 「未満児」は0歳から2歳までの年齢にある3歳未満の子どもを指し、「以上児」は3歳以上（3歳から5歳まで）の子どもをいいます。（年齢は各年度の4月2日現在の満年齢で判断します）

## 子どもの育ちをめぐる環境について

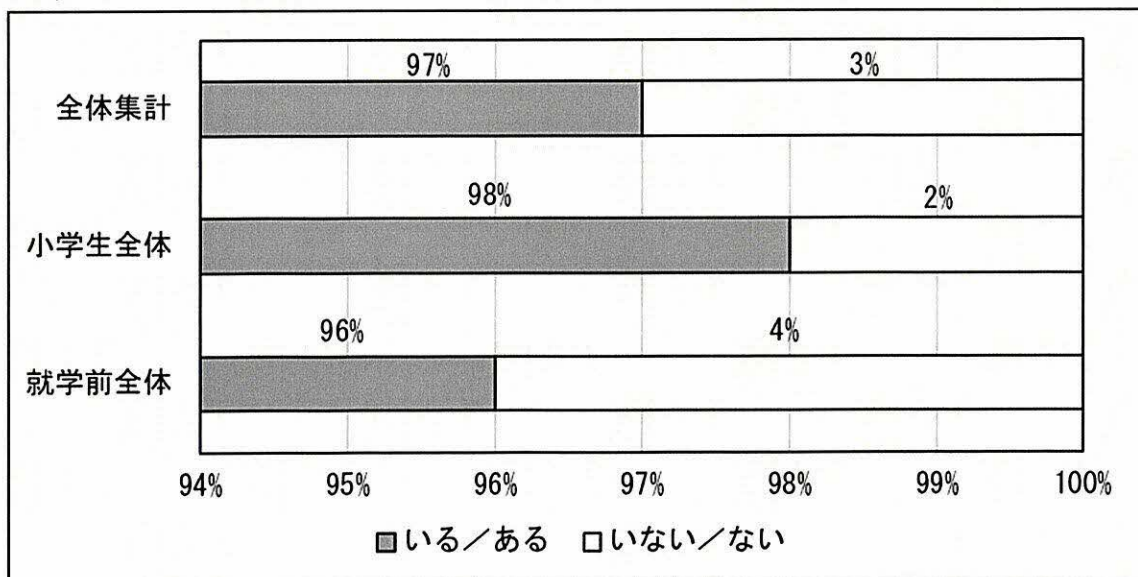
### 子どもを見てもらえる親族・知人の有無

「親族(緊急)」と答えた割合が高く、次いで「親族(日常)」、「知人・友人(緊急)」でした。「いない」と答えた方は全体では4%(13人)でした。



### 子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人や場所の有無

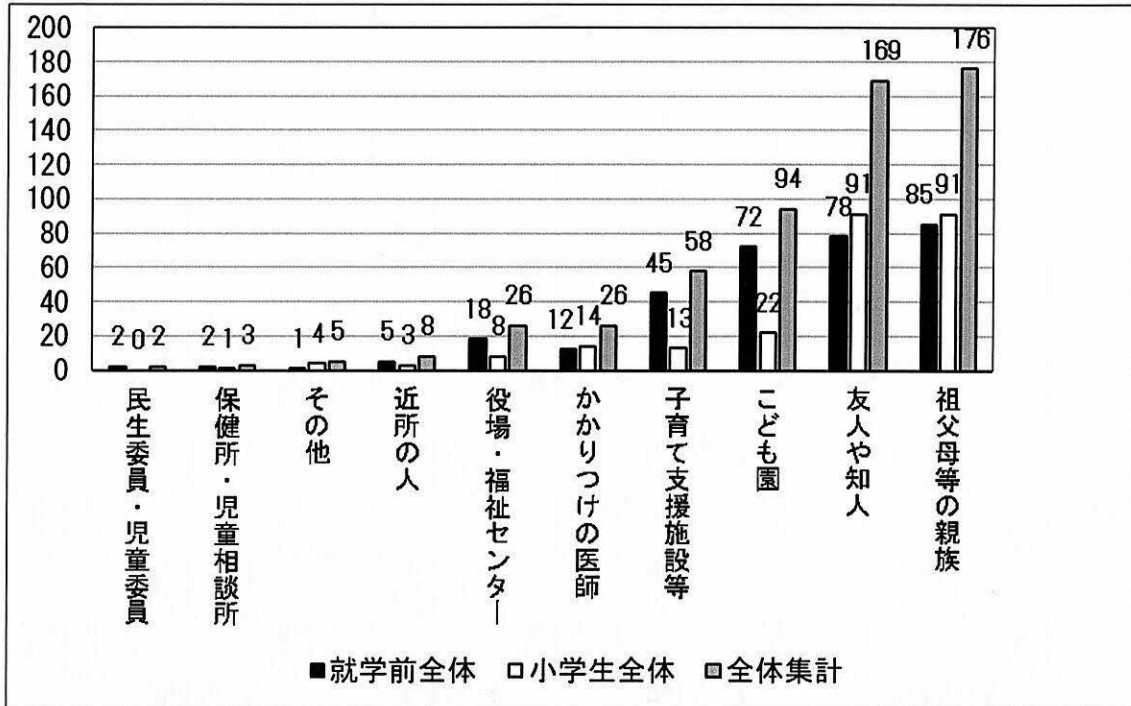
就学前、小学生、いずれも「いる/ある」と答えた者が最も多く、それぞれ全体の90%以上を占めています。



■子育て（教育を含む）の相談先

就学前、小学生、いずれも「祖父母等の親族」、「友人や知人」、「こども園」と答えた割合が高く、前回と同じ傾向でした。

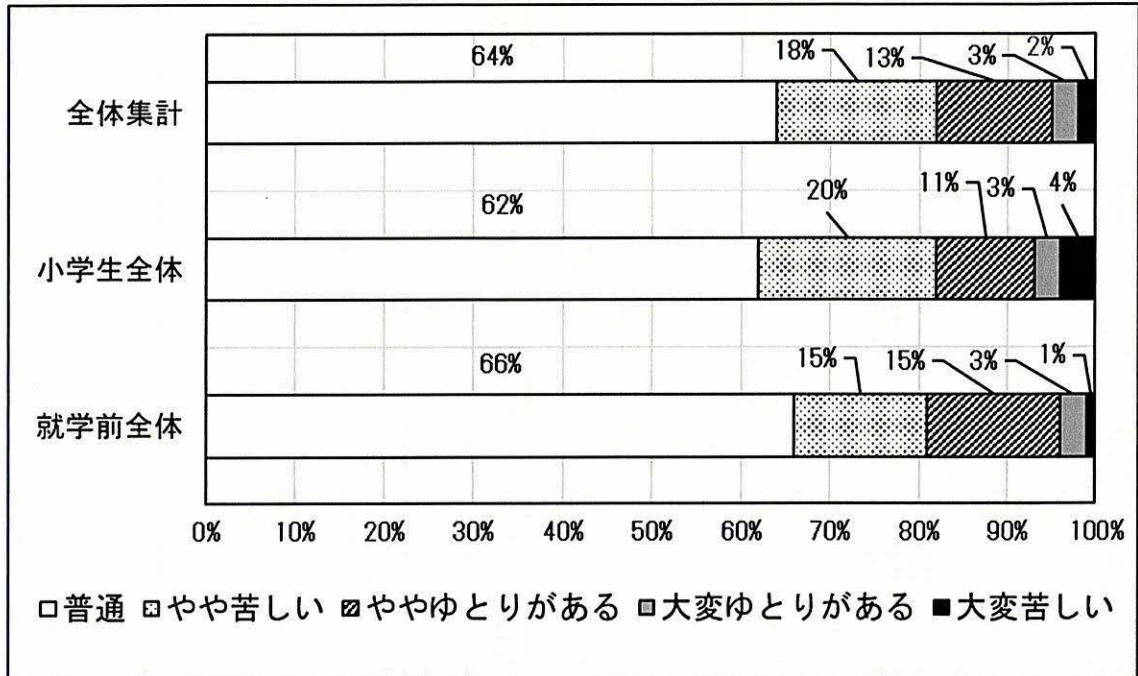
単位：人



## 現在の経済的状況について

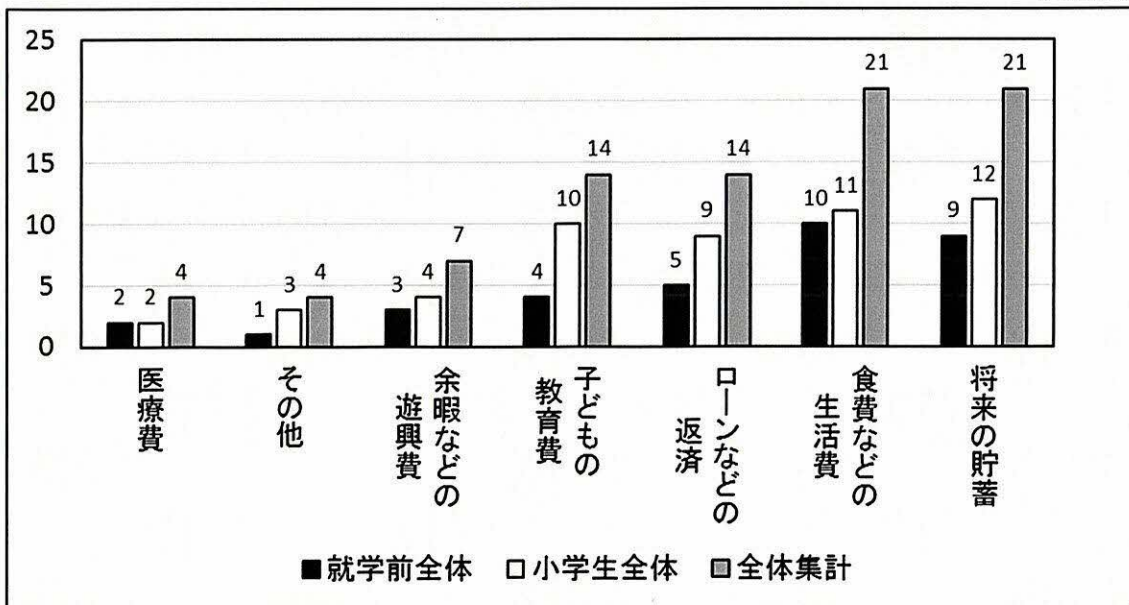
### 現在の暮らしの経済的状況

就学前、小学生、いずれも「普通」が最も多く、「大変ゆとりがある」、「大変苦しい」と答えた割合は全体の5%以下でした。



### やや苦しい、苦しいと答えた理由について

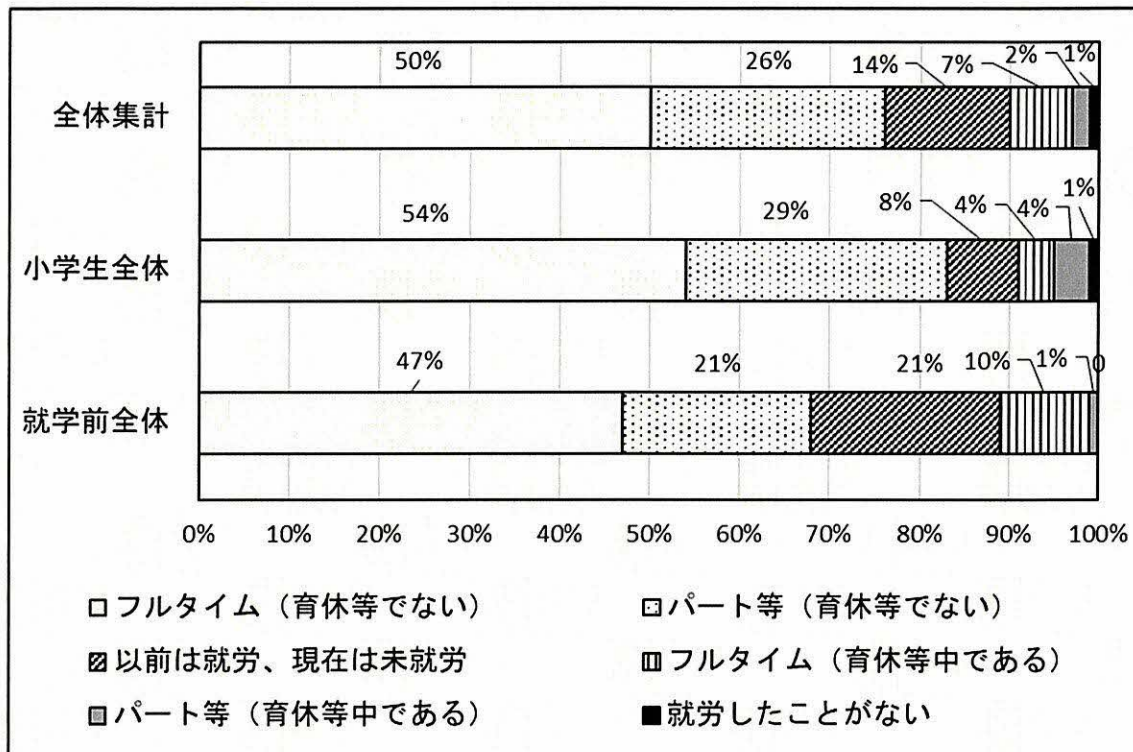
就学前、小学生、いずれも「将来の貯蓄」と「食費などの生活費」と回答した人数が多く、次いで「ローンなどの返済」、「子どもの教育費」となっています。 単位：人



## 保護者の就労状況について

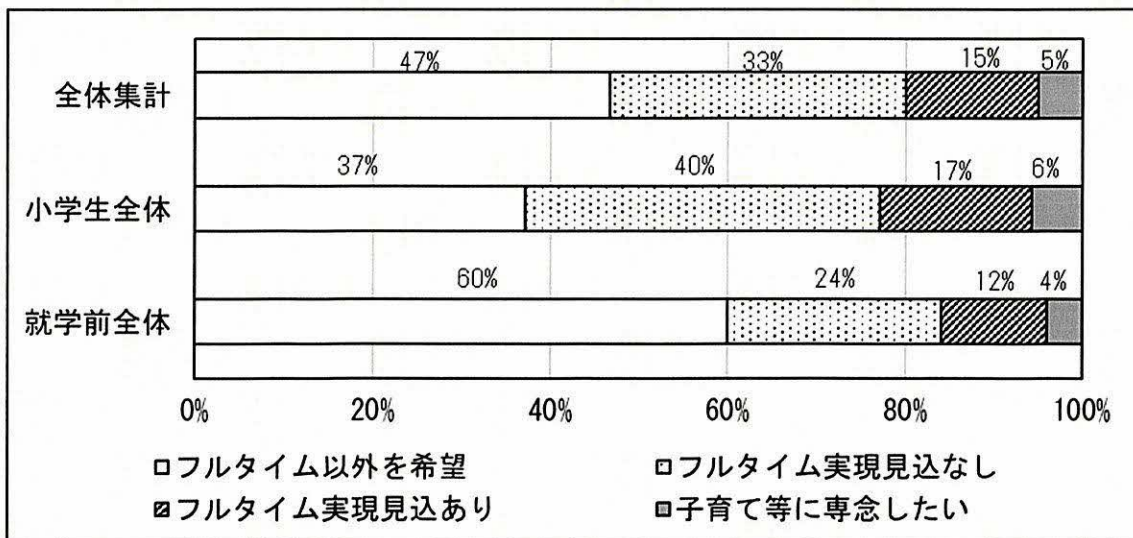
### ■母親の就労状況について

就学前全体と小学生全体で、「以前は就労、現在は未就労」と「就労したことがない」をあわせた割合を比較すると、小学生全体の方が低くなっており、子どもの年齢が上がると就労率が上がる傾向がわかります。



### ■パート・アルバイト就労の母親のフルタイム就労への転職希望

就学前、小学生、いずれも「フルタイム実現見込みなし」と「フルタイム以外を希望」を合わせると全体の70%以上を占めています。

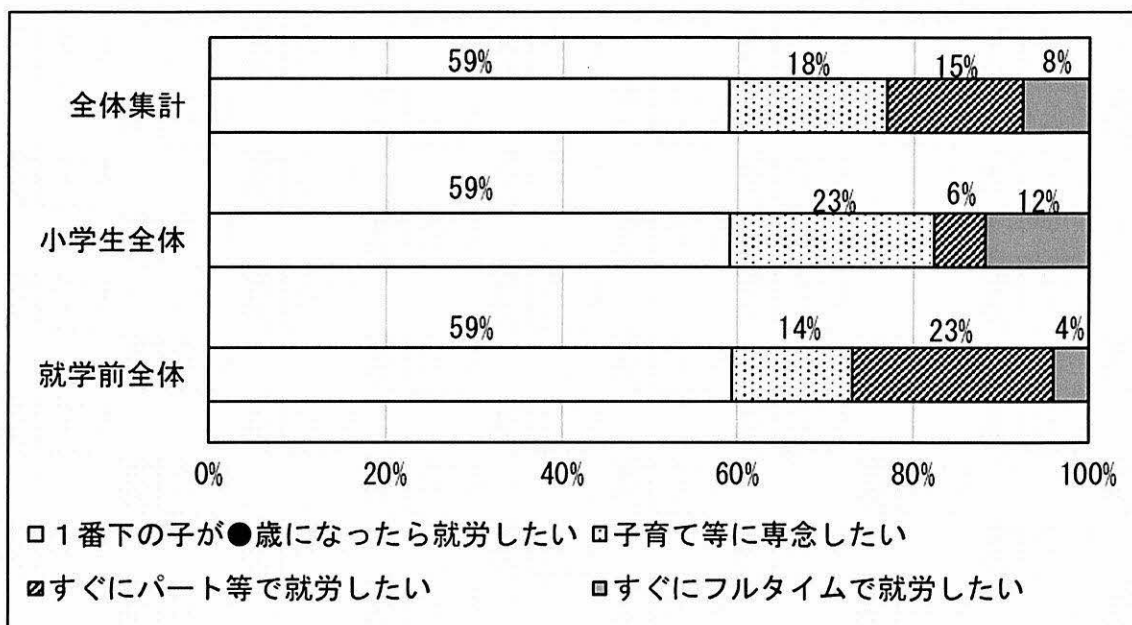




■ 不就労の母親の就労希望

全体で「1番下の子が●歳になったら就労したい」が59%（23人）、「子育て等に専念したい」が18%（7人）、すぐにパート等で就労したい」が15%（6人）、「すぐにフルタイムで就労したい」が8%（3人）となっています。

前回と比較すると、「子育て等に専念したい」と答えた割合はほとんど変わりありませんでしたが、「1番下の子が●歳になったら就労したい」と答えた割合が増加し、「すぐにフルタイムで就労したい」、「すぐにパート等で就労したい」と答えた割合は減少しました。

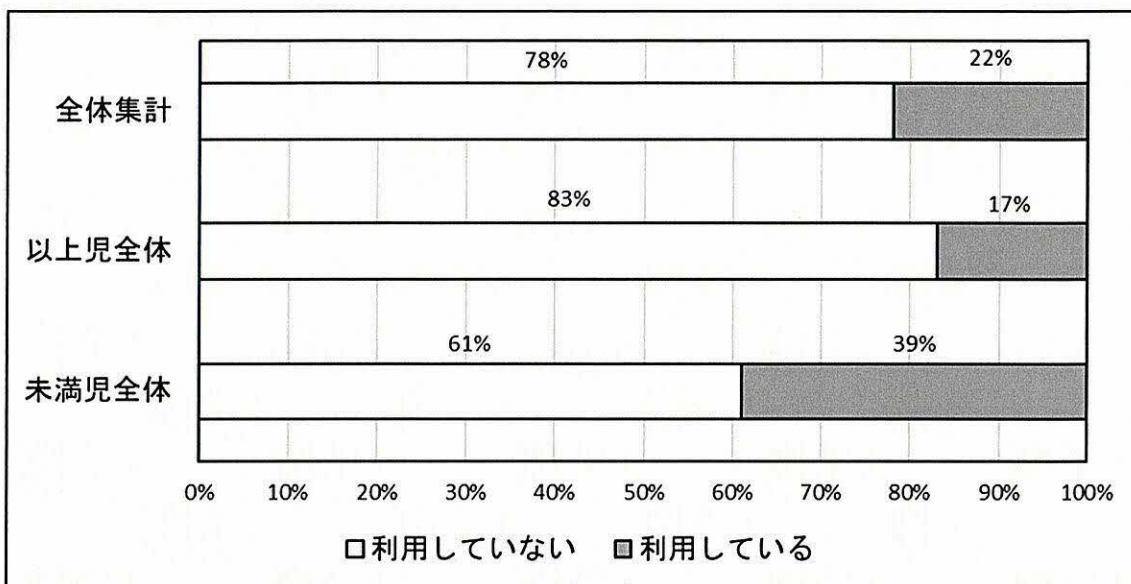


## 子育て支援センター（地域の子育て支援事業）の利用状況について

### ■子育て支援センターの利用の有無

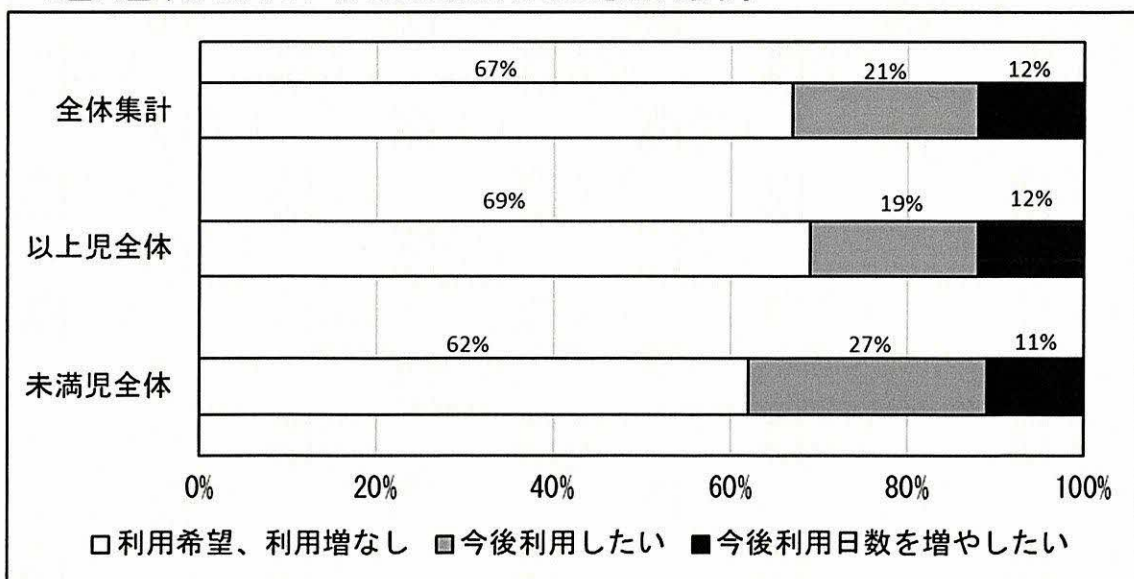
全体で「利用している」が22%（25人）、「利用していない」が78%（87人）となっています。

前回よりも低年齢からのこども園入園率が増えていることによるものと思われます。



### ■今後の利用希望の有無

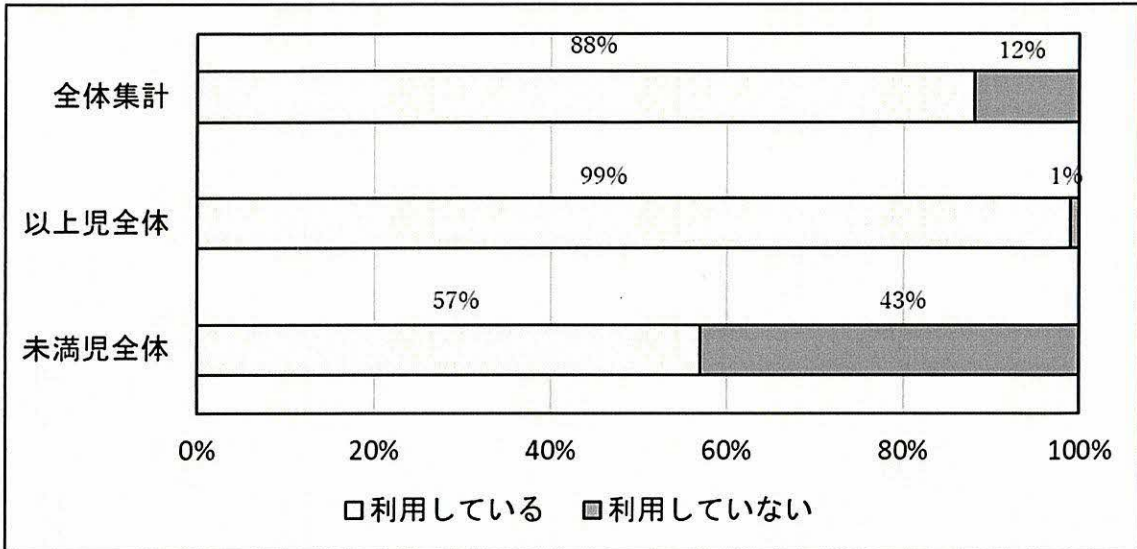
「今後利用したい」が21%（21人）、「今後利用日数を増やしたい」12%（12人）、「利用希望、利用増なし」が67%（67人）となっています。前回と比較すると、「利用希望、利用増なし」と答えた割合が増えており、前問同様、低年齢からのこども園入園率が増えていることによるものと思われます。



**平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について**

■こども園等の「定期的な教育・保育の事業」利用の有無

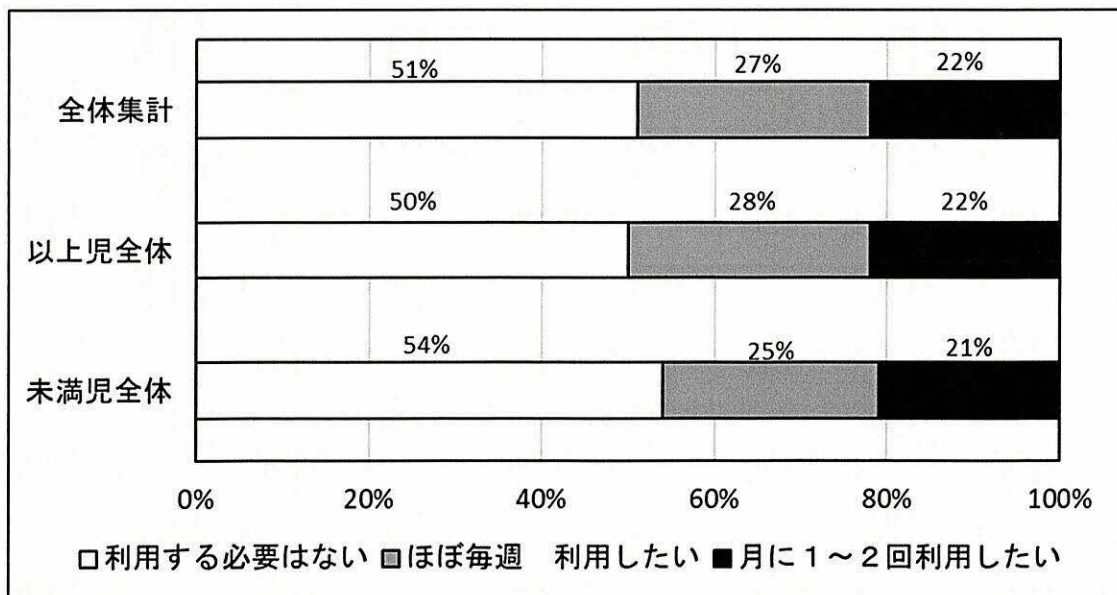
全体で「利用している」が88%（99人）、「利用していない」が12%（13人）となっています。前回との比較では、「利用している」の割合が12%増加しています。



**土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について**

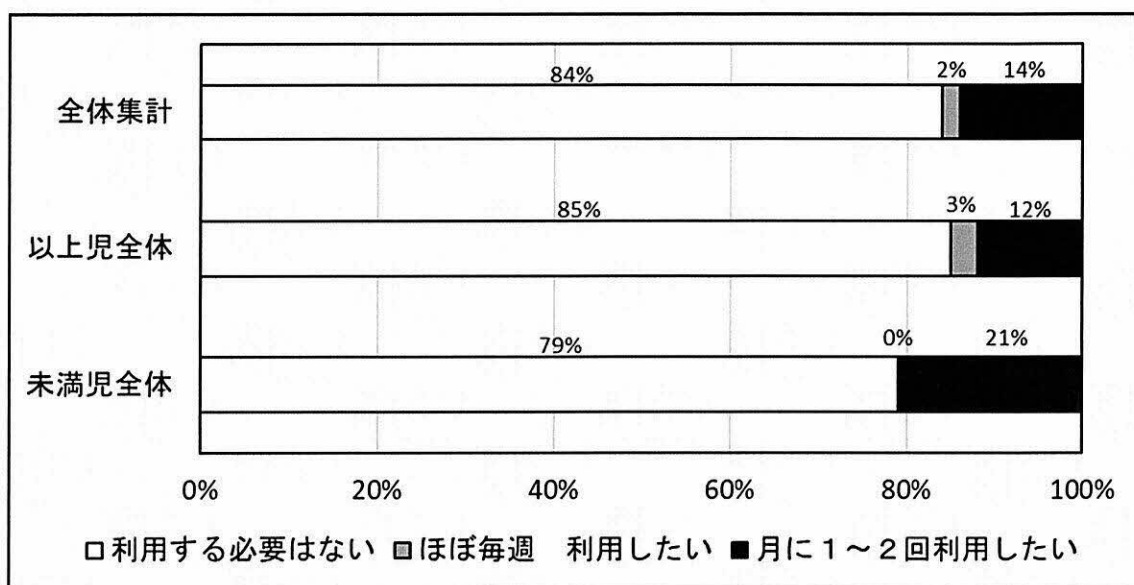
■土曜のこども園等の利用希望

「利用する必要はない」が51%（56人）、「ほぼ毎週利用したい」が27%（30人）、「月に1～2回利用したい」が22%（24人）となっています。前回と比較すると、「利用する必要はない」が12%増加し、「ほぼ毎週利用したい」が3%、「月に1～2回利用したい」9%、それぞれ減少しています。



■日曜・祝日のこども園等の利用希望

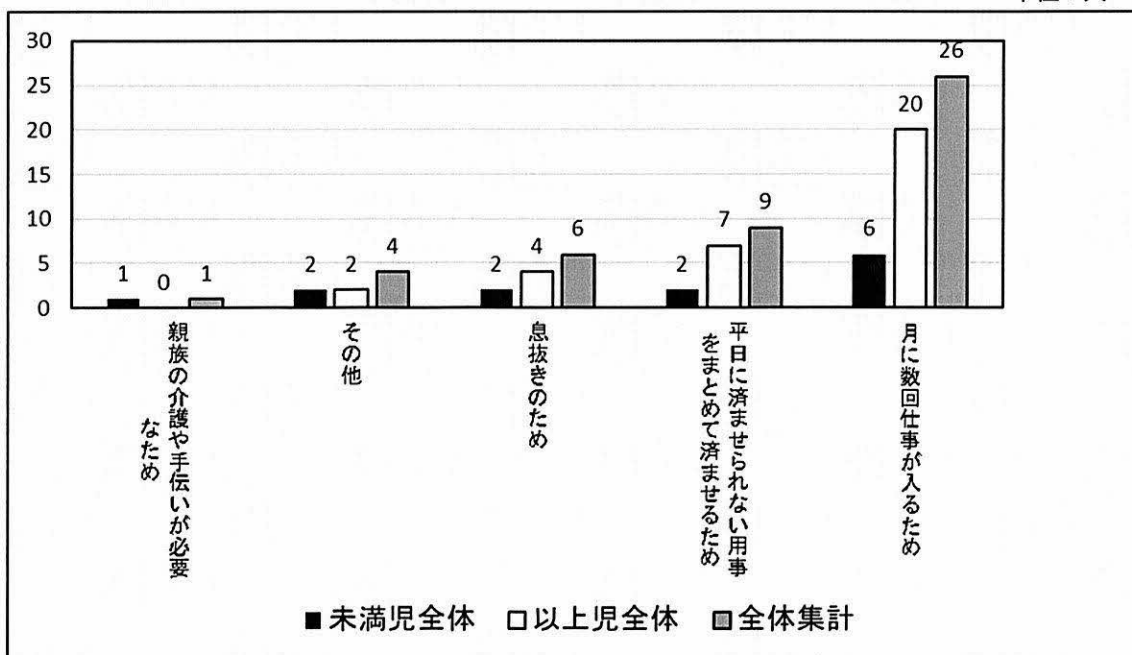
「利用する必要はない」が84%（92人）、「ほぼ毎週利用したい」が2%（2人）、「月に1～2回利用したい」が14%（16人）となっています。前回と比較すると、「利用する必要はない」が11%増加し、「ほぼ毎日利用したい」が2%、「月に1～2回利用したい」が9%、それぞれ減少しています。



■土曜・休日をたまに利用したい理由

全体では、「月に数回仕事が入るため」が26人、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が9人、「息抜きのため」が6人、「その他」が4人、「親族の介護や手伝いが必要なため」が1人となっています。

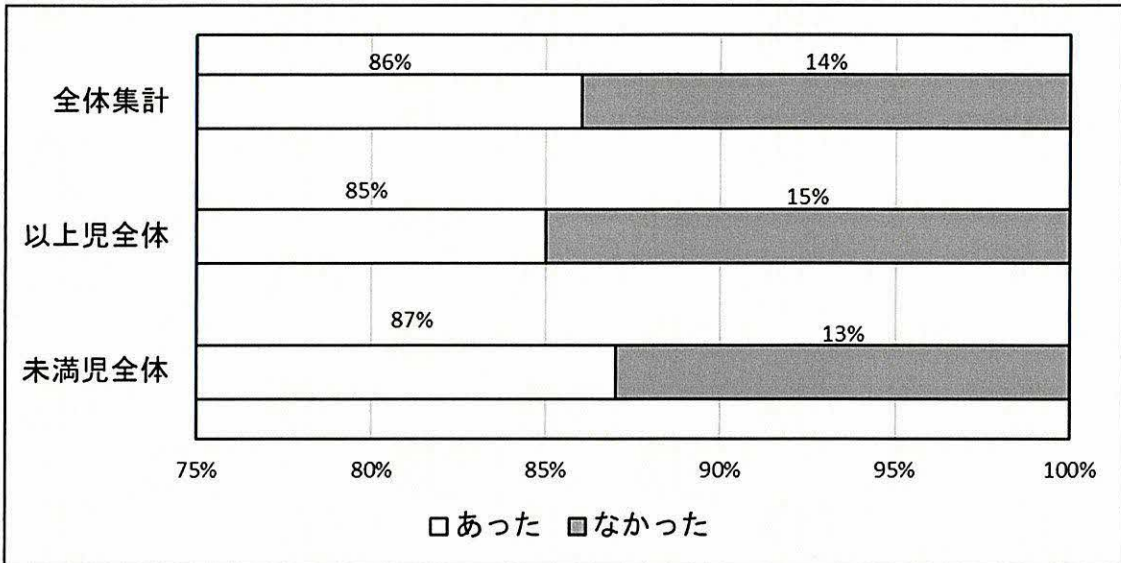
単位：人



## 病 気 の 際 の 対 応 に つ い て

### ■ 子どもが病気やけがで通常の保育・教育事業が利用できなかったことの有無

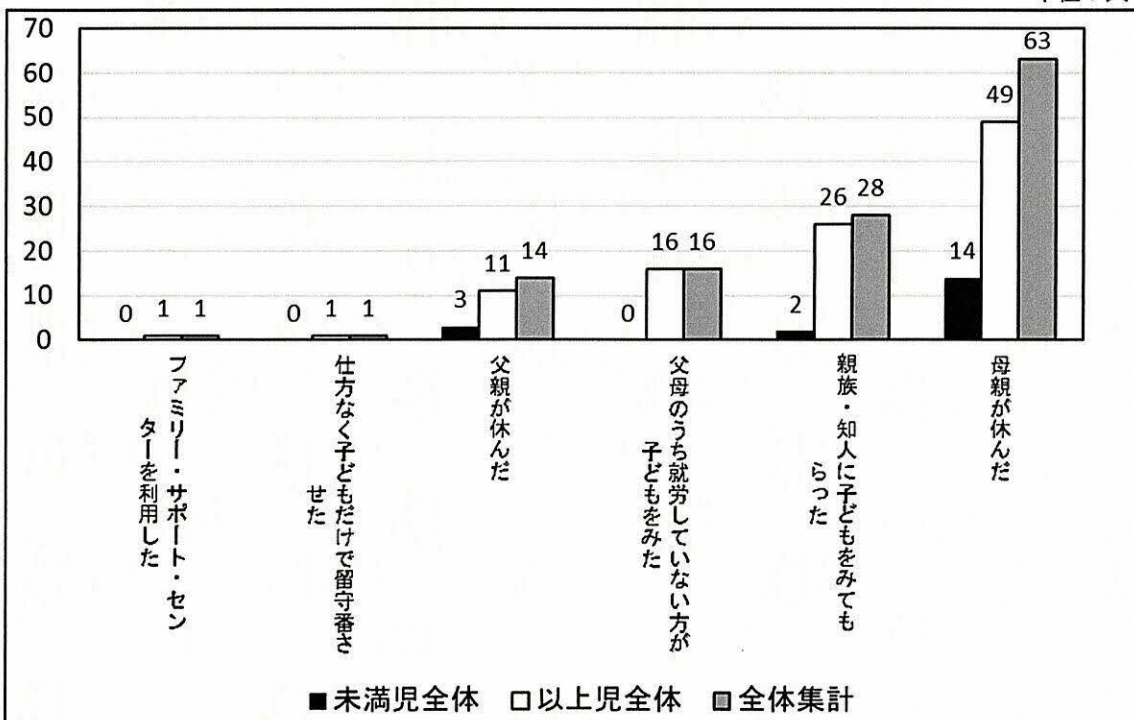
子どもが病気やケガで登園できなかったことがあるかどうかでは、「あった」が86%（83人）、「なかった」が14%（14人）となっています。



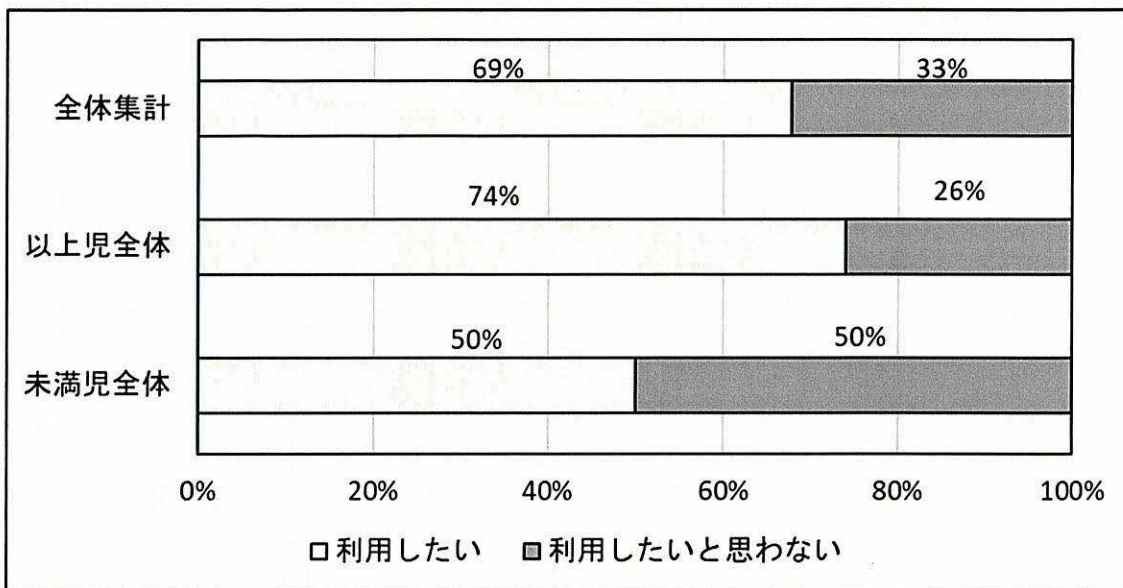
### ■ 利用できなかった場合の対処方法

「母親が休んだ」が75.9%（63人）、続いて「親族・知人に子どもをみてもらった」が33.7%（28人）、「父母のうち就労していない方が子どもをみた」19.3%（16人）、「父親が休んだ」が16.9%（14人）の順となっています。前回も同様の順でした。

単位：人



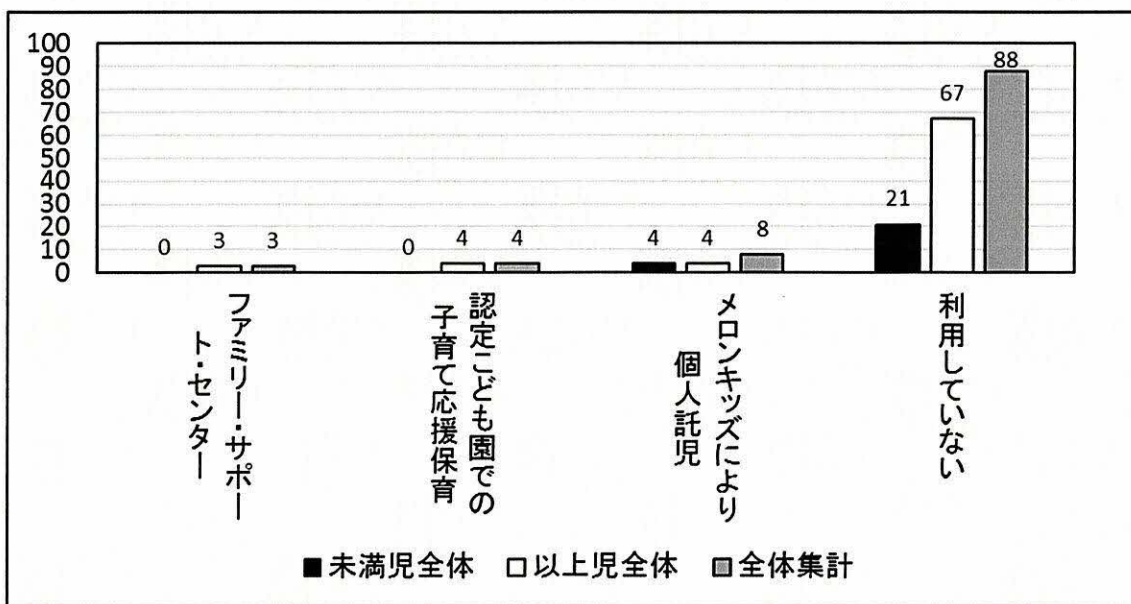
■ その際の病児・病後児のための保育施設等の利用希望の有無(訓子府町には現在なし)  
 「利用したい」が31% (20人)、「利用したいと思わない」が69% (44人) となっています。前回との比較では、「利用したい」が2%減少しています。



**子どもの不規則の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について**

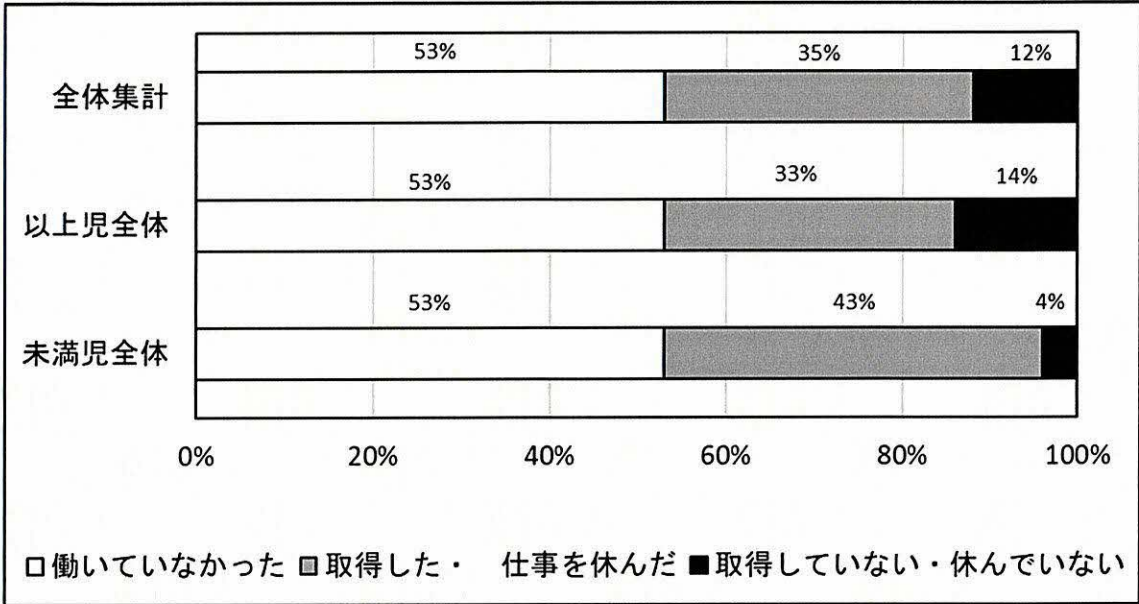
■ 私用、保護者の通院、不規則の就労等の目的で不規則に利用している事業の有無  
 「利用していない」が88人、「メロンキッズにより個人託児」が8人、「認定こども園での子育て応援保育」が4人、「ファミリー・サポート・センター」が3人となっています。

単位：人



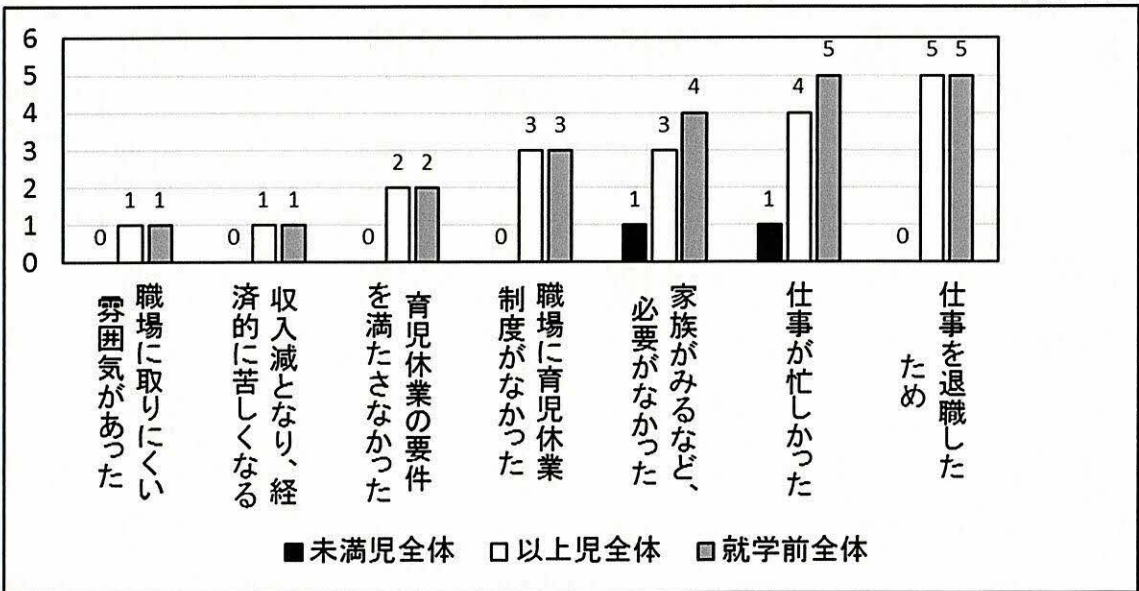
**育児休業など職場の両立支援について**

■子どもが生まれた際の育児休業の取得の有無（母親）  
 「働いていなかった」が53%（59人）、「取得した・仕事を休んだ」が35%（39人）、  
 「取得していない・休んでいない」が12%（13人）となっています。



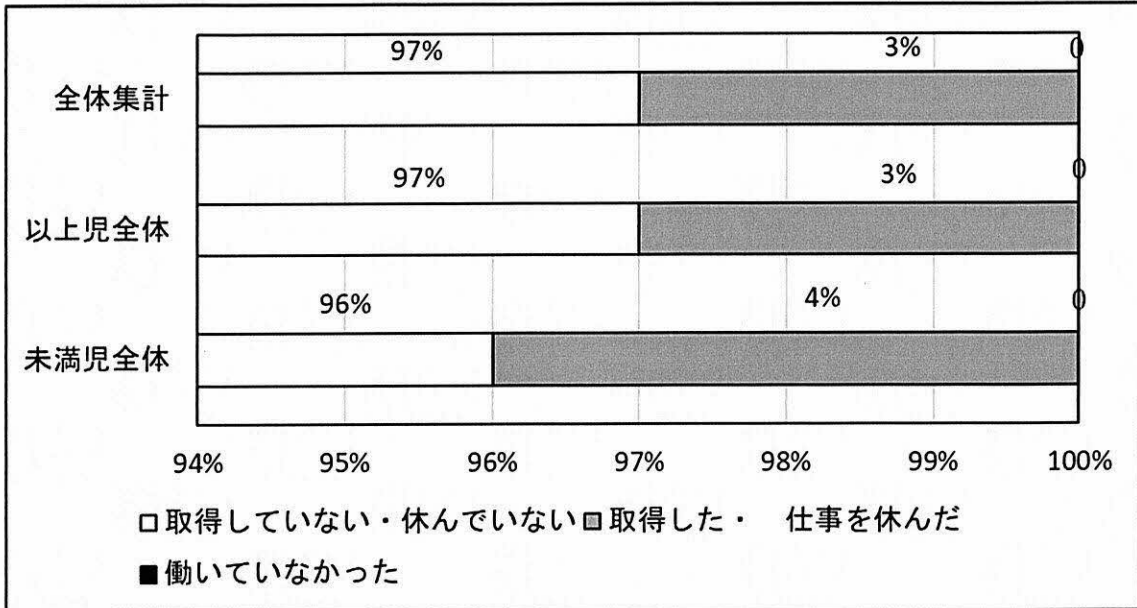
■育児休業を取得していない理由（母親）  
 「仕事を退職したため」と「仕事が忙しかった」が5人、「家族がみるなど、必要がなかった」が4人、「職場に育児休業制度がなかった」が3人、「育児休業の要件を満たさなかった」が2人「職場に取りにくい雰囲気があった」と「収入減となり、経済的に苦しくなる」が1人となっています。

単位：人



■子どもが生まれた際の育児休業の取得の有無（父親）

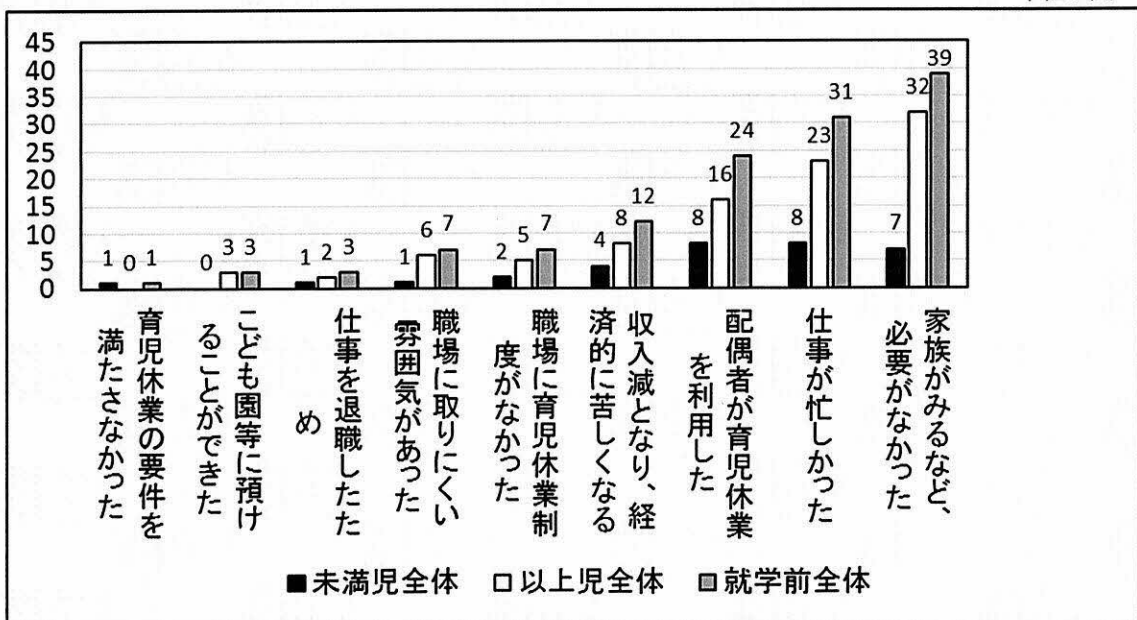
「取得した・仕事を休んだ」が3%（3人）、「取得していない・休んでいない」が97%（97人）となっています。



■育児休業を取得していない理由（父親）

「家族がみるなど、必要がなかった」が39人、「仕事が忙しかった」が31人、「配偶者が育児休業を利用した」が24人、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が12人、「職場に育児休業制度がなかった」と「職場に取りにくい雰囲気があった」が7人、「仕事を退職したため」と「こども園に預けることができた」が3人、「育児休業の要件を満たさなかった」が1人となっています。

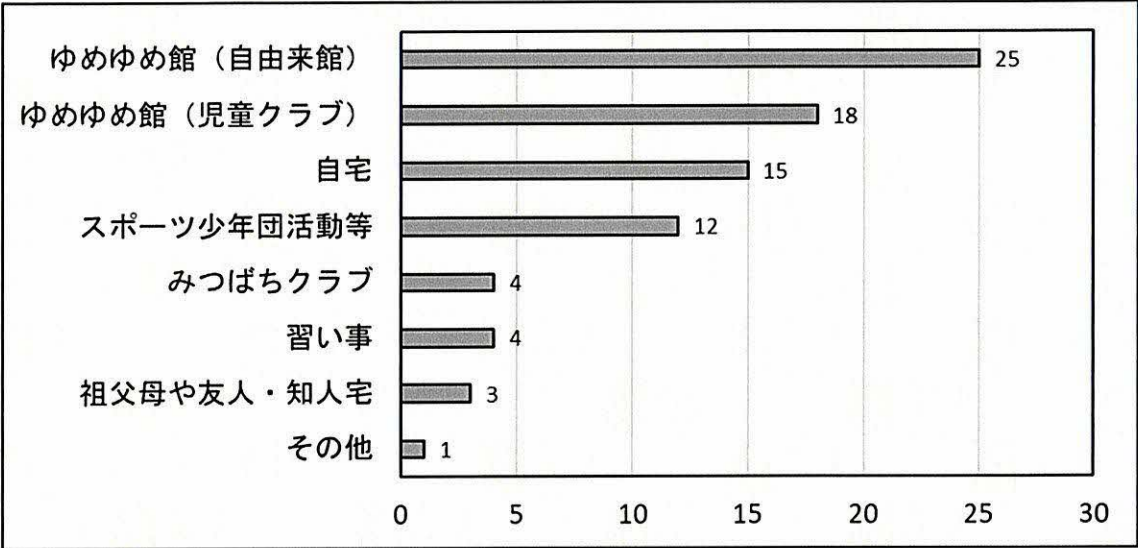
単位：人



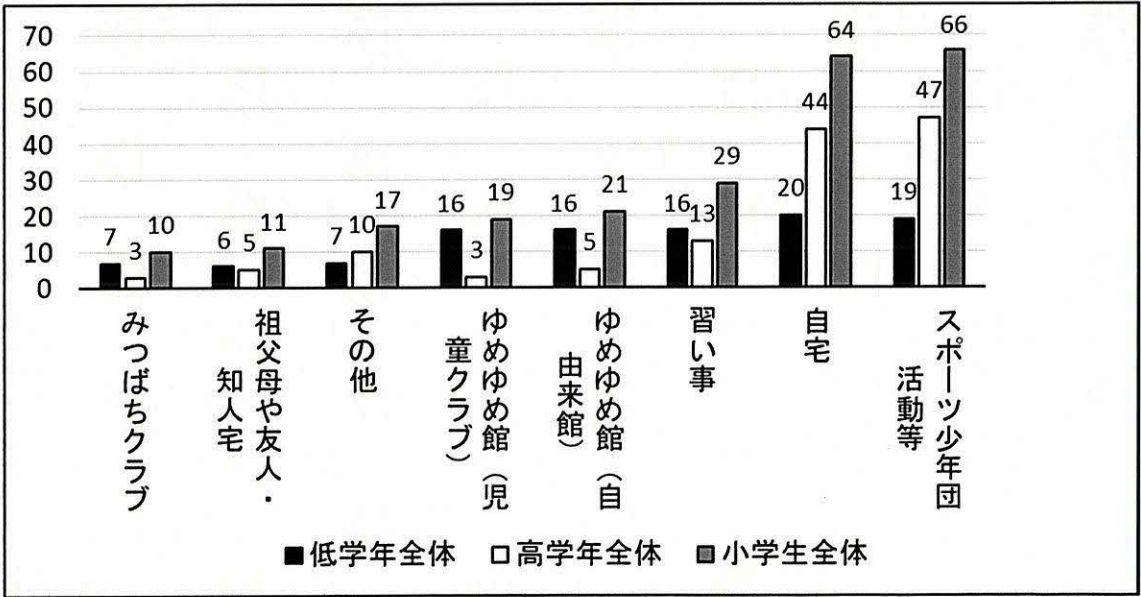


**放 課 後 の 過 ぎ し 方 に つ い て**

■ 小学校就学後の放課後の過ごし方（就学前の5歳以上児の保護者へ質問）  
 「ゆめゆめ館（自由来館）」が25人、「ゆめゆめ館（児童クラブ）」が18人、「自宅」が15人、「スポーツ少年団活動等」が12人、「習い事」と「みつばちクラブ」が4人、「祖父母や友人・知人宅」が3人、「その他」が1人となっています。 単位：人



■ 小学生の放課後の過ごし方（小学生の保護者へ質問）  
 「スポーツ少年団活動等」が66人、「自宅」が64人、「習い事」が29人、「ゆめゆめ館（自由来館）」が21人、「ゆめゆめ館（児童クラブ）」が19人、「その他」が17人、「祖父母や友人知人宅」が11人、「みつばちクラブ」が10人となっています。 単位：人

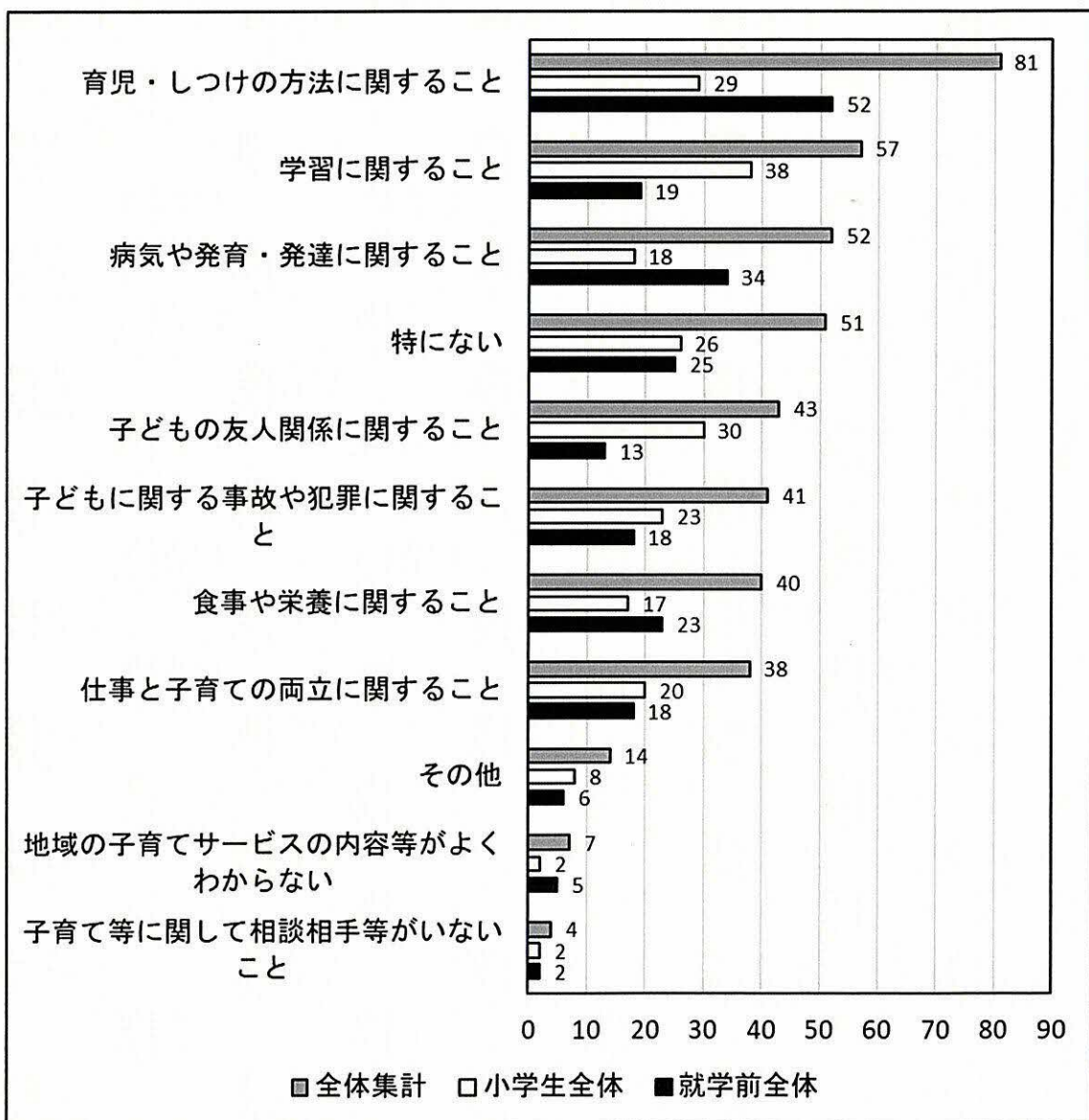


## 子育てに関する不安や悩みについて

### ■子育ての不安・悩み有無（複数回答）

全体で「育児・しつけの方法に関すること」が81人、「学習に関すること」が57人、「病気や発育・発達に関すること」が52人、「特にない」が51人、「子どもの友人関係に関すること」が43人、「子どもに関する事故や犯罪に関すること」が41人、「食事や栄養に関すること」が40人、仕事と子育ての両立に関することが38人、「その他」が14人、「地域の子育てサービスの内容等がよくわからない」と「子育て等に関して相談相手等がないこと」が4人となっています。

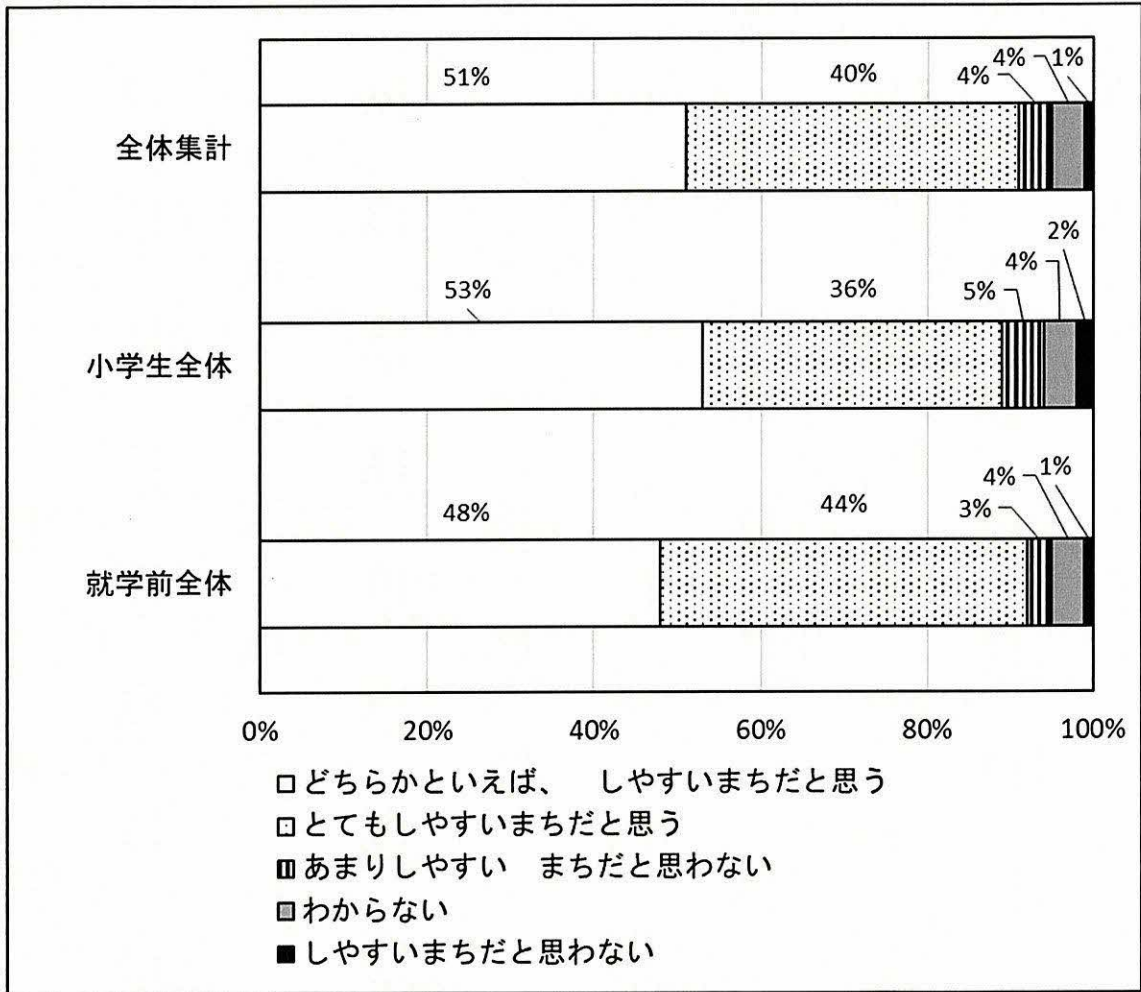
単位：人



## 子育てのしやすさについて

### ■ 訓子府町は子育てがしやすい町だと感じるか

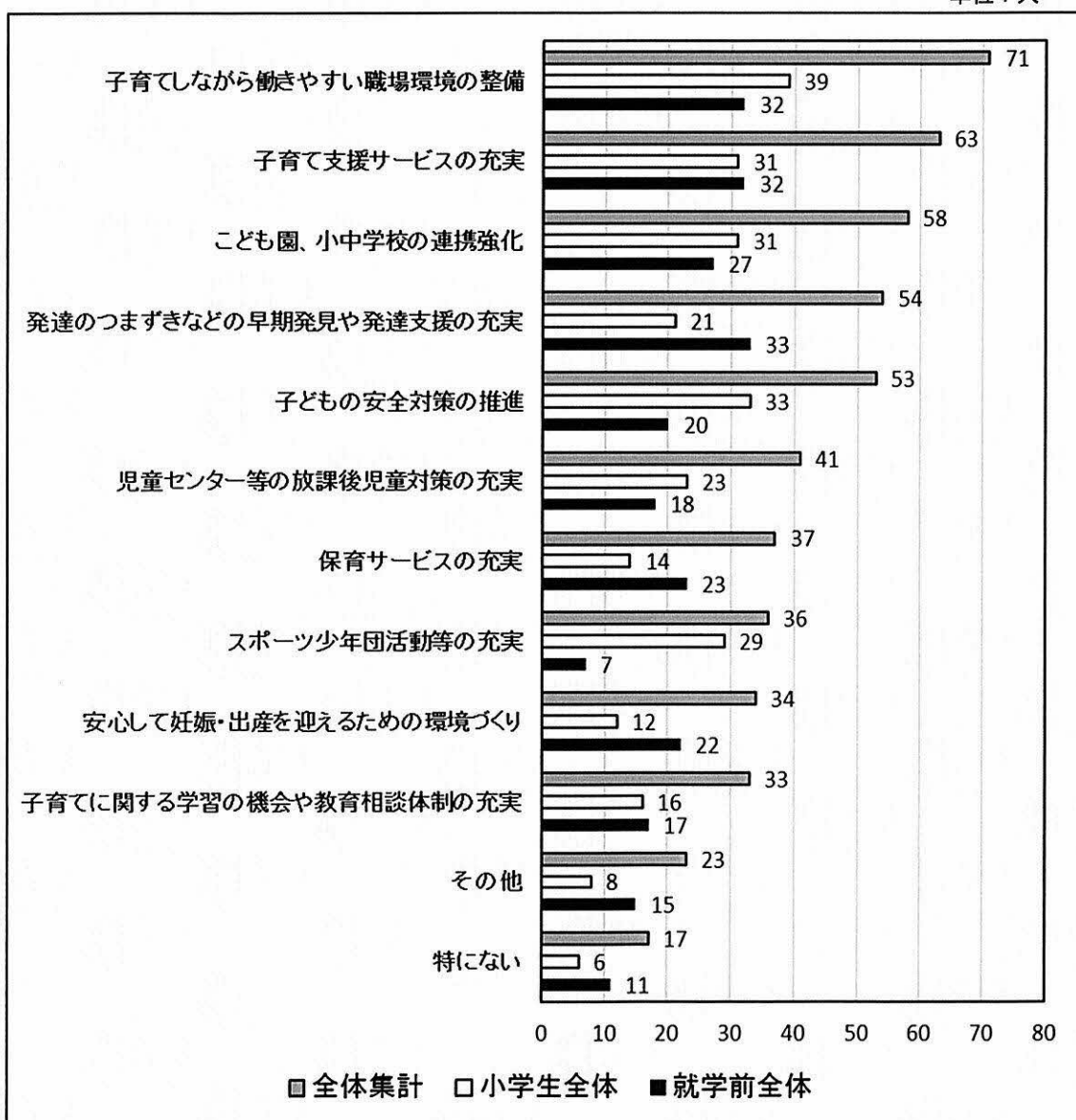
全体で「どちらかといえば、しやすいまちだと思う」が 51% (112 人)、「とてもしやすいまちだと思う」が 40% (89 人)、「わからない」と「あまりしやすいまちだと思わない」が 4% (9 人)、「しやすいまちだと思わない」が 1% (3 人) となっています。



■子育てがしやすいまちづくりのために、今後どのようなことが重要か（複数回答）

全体で「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」が71人、「子育て支援サービスの充実」が63人、「こども園、小中学校の連携強化」が58人、「発達のおつまずきなどの早期発見や発達支援の充実」が54人、「子どもの安全対策の推進」が53人、「児童センター等の放課後児童対策の充実」が41人、「保育サービスの充実」が37人、「スポーツ少年団活動等の充実」36人、「安心して妊娠・出産を迎えるための環境づくり」が34人、「子育てに関する学習会の機会や教育相談体制の充実」が33人、「その他」が23人、「特にない」が17人となっています。

単位：人



### 【自由記載の概要】

- ◆こども園関係～12人 ◆小学校の体制～8人 ◆児童センター関係～4人
- ◆母子保健事業関係～4人 ◆少年団、部活動関係～2人
- ◆その他の項目
  - ・公園整備（3人）・経済的支援（2人） ・病院にベビーベッド整備（1人）
  - ・ゴミの回収日（1人）・休日の遊び場（1人） ・防犯意識の普及（1人）
  - ・小児科整備（1人）・親への教育（1人）・講演会の要望（1人）
  - ・祝い金（1人）・子どものおさがり再利用（1人）

## ニーズ調査結果のまとめ

### ①訓子府町における子育ての満足度

「訓子府町は子育てがしやすいまちだと感じるか」の問いに対して「とてもしやすいまちだと思う」「どちらかといえば、しやすいまちだと思う」を合わせて大半の方が子育てがしやすいまちであると回答していることから、本町における子育ての満足度は高く、全体的に町の子育て支援サービスについては充足していると考えられます。

### ②子どもの安全確保

子どもたちが安心して生活できるよう犯罪や事故のないまちづくりの取組みが求められています。

### ③教育・保育施設、子どもの居場所の充実

共働き世帯等の増加に伴い、認定こども園の入所希望が増加していることから、教育・保育の充実が求められています。また、小学生については放課後に子どもが安心・安全に利用できる子どもの居場所づくりが求められています。

### ④子育て世帯の経済的負担の軽減

子どもの教育・保育にかかる費用について負担感が増大しており、経済的な支援を求める意見があります。このため、子育て世帯の経済的な負担軽減策が求められています。



### 3 意見交換会（グループインタビュー）の概要

子育て支援施策に関するアンケート結果を踏まえて、本町の子育ての現状と課題について把握するため、子どもに関わる保護者組織や、子育てに関する団体を対象に実施しました。

実施時期	実施団体
令和元年7月	こども園育友会
令和元年8月	おむすびの会
令和元年9月	子育てサークル・OHANA

#### <内容のまとめ>

#### 1. 子育てに関する不安や悩みについて

##### <妊娠期～未就学児>

- ・夫との意見の食い違いがストレスにつながる。夫の子育ての協力が少ない。
- ・幼少期から夫の協力があると思春期の子育てにつながる。
- ・父親の関わりや役割について学習する場があるとよい。

##### <小学生>

- ・こども園に入園している時はお迎えの時に話す機会があったが小学校に上がると親同士で会う機会は少なくなる。少年団活動や参観日しか会う機会がない。
- ・小学生になると子どもの相談事は主に担任の先生に相談するが、日常的な子育てについてどこに相談してよいか迷うことがある。
- ・地域の行事に参加し子どもを地域の人に知ってもらうことで、地域での見守りにつながると思うが、地域で子どもの集まりは少なくなっている。
- ・地域での子どもの見守りは大切だが、地域の大人も企画することに負担感がある。

##### <発達障がいの理解について>

- ・「発達支援の充実」はありがたい。第1子の時はどうやって子どもとコミュニケーションをとっていいのかわからなかった。聞いてもらえるだけで安心できたと思う。
- ・現在は発達支援事業で美幌療育病院の専門職の協力を得て、保護者の対応方法の学習や子どもの理解につながっている。
- ・発達障がいについて社会的に理解が進んできてはいるが、自分の子どものこととなるとわからないことも多い。情報の発信や、相談窓口の周知の機会を増やしてほしい。

## 2. 子育てしやすい町づくりについて

### <妊娠期～未就学児>

- 子育て支援センター、こども園、小中学校とつながっているので安心できる。
- 離乳食教室など定期的に育児教室があり育児の悩みを相談できる。
- 月齢が近い人と各種教室を通じていろいろな場面で知り合うことができ、その後つながりを持つことができる。
- 休みの日に屋内で小さい子どもが遊べる場所がない。

### <発達障がいの理解について>

- 地域の温かい目、温かい見守りがほしい。普段はそっと見守ってくれて、危険なことをしていたら危ないと言ってくれる地域の理解があるとうれしい。町で暮らす人々はいろいろな人がいてあたりまえ、いろいろな人がいていいよねという町になってほしい。そのためには、地域の方たちとの交流やつながりが大切と思うが、最近町内会等の付き合いも希薄になってきているように感じる。どこの地域も若い人の参加は少ない。

### <子育て支援センター>

- 子育て中の仲間づくりや悩み相談など就園前に親子で利用できる子育て支援センターの存在は大きい。
- 大きい町では利用の制限を設けているところもあり先着順などで利用のしにくさがあるが、訓子府は年齢別、自由解放、ミニ講座など定員規制がなく参加しやすい。
- 子育て支援に関する情報の発信方法について工夫してほしい。

### <環境整備>

- 銀河公園の遊具が壊れて長い期間そのままになっている。
- ポケットパークに日影がほしい。子どもを見守れるように道路側にあったらよい。
- 町内に薬局がなく、すぐに薬が欲しい時に手に入らない。
- 子育て世代が入居できる住宅が足りない。公営住宅は所得制限があり町内に住みたくても住宅がない。

## 3. その他意見

- 無料託児券、おむつのごみ袋無料配付はありがたい。続けてもらいたい。
- 毎日の生活の助成はありがたい。(医療費助成、保育料無償化など)
- 託児無料託児券は1歳くらいまでは授乳や人見知りがあってなかなか預けられない。1歳半くらいまで延長してほしい。
- 児童センターのおやつを提供を検討してほしい。

## 4 訓子府町の子ども・子育てを取り巻く現状課題

訓子府町では、子どもの人口は年々微減傾向にあり、平成 30 年 3 月末において年少人口（0～14 歳）は 575 人となっています。（H25 年 3 月末 661 人）

母親の年齢 5 歳階級別出生率の推移をみると 20 歳代では減少傾向にあるのに対して、30 歳代、40 歳代では増加傾向にあることから、晩婚化、晩産化が進行していることがうかがえます。

また、こども園の入園状況をみると共働き世帯の増加に伴い、未満児の入園率が年々増加しており、平成 30 年度で約 40%の入園率となっています。（H25 年度未満児入園率約 30%）

さらに児童クラブの実施状況をみると、入所人数は月により異なりますが、ピーク時には定員の 70 人を超えている状況です。

○アンケート調査、意見交換会の結果から、本町における子育ての満足度は高く、全体的に町の子育て支援サービスについては充足しているという意見が多く聞かれました。

○子育て支援に係る各種事業の参加状況については全体的に数値の伸びはありませんが、子どもの数が年々減少していることが要因のひとつと考えられます。引き続き、家庭と地域がそれぞれの役割を果たし、社会全体で子育てを支援していくことが必要です。

○町では子どもの各年齢に応じて、様々な子育て支援施策を実施していますが、子育て中の不安や悩みに対し、相談体制の充実を図り、子育て支援に関する情報発信を工夫しながら支援をしていくことが必要です。

○共働き世帯の増加など、社会環境の変化にあわせて、質の高い教育・保育サービスの提供や多様なニーズに応える子育て支援施策の充実が求められています。

○子育てしながら働きやすい環境の整備や父親の育児参加の促進などについて意見があり、子育てと仕事の両立に関する支援が求められています。

○障がいや様々な特性のある子どもに対して、地域の中で理解が促進されるよう、教育、福祉、医療など関係機関の連携強化が求められています。